



第1章

未来の横浜の環境は

01 「横浜の環境」の未来を考える

02 横浜の環境の歩みとその先へ



環境を大切にしたら未来

みんなで取り組んだら、きっとこんな未来になる

食糧供給や
洪水や水質の調節など、
様々な自然の恩恵を
受けられている

気温の上昇が
抑えられている

豊かな自然や
生き物を身近に感じられ、
人々の癒しとなっている

誰もが快適な環境を
実感できている

資源・エネルギーの
循環が確立し
安定した生活が
おけている

環境を大切にしない未来

みんなで取り組まなかったら、きっとこんな未来になる

農作物、
海産物への
悪影響が出ている

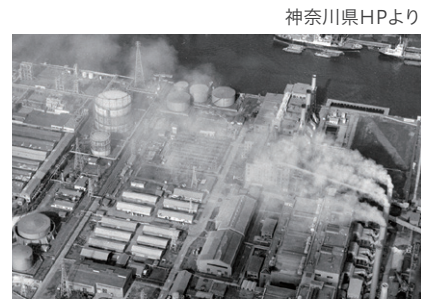
気温が大幅に上昇し、
酷暑になる

身近なみどりが減少し、
癒し・心地よさが
失われている

大規模な風水害が
増加している

資源・エネルギー
需要が増大し、
供給不足や
廃棄物の増加が
深刻化している

私たちは、大気汚染や水質汚濁、ごみの処理など、さまざまな環境課題に向き合い、力を合わせて取り組んできました。その結果、私たちの意識と行動力ー市民力ーが大きな力となり、より良い横浜の環境をつくってきました。これまでの歩みは、横浜が未来に向けて挑戦を続けるための、確かな土台になっています。



神奈川県HPより

公害防止協定(横浜方式)(1964)
市と企業が丸となって公害対策に取り組み、環境アセスメントの先駆けに。



多自然川づくり(1982)
全国に先駆けて自然に配慮した川づくりを開始。



ごみ量の大幅な削減を達成(2009)
市民・事業者・行政の協働により、目標とした30%を大幅に上回る42.2%のごみ量を削減。



道志水源林100周年(2016)
水源の1つである道志川の水質を守るため、1916年に山梨県から山林を購入して管理を開始。市民ボランティア団体との協働で道志村の民有林整備も行っている。



脱炭素先行地域に選定(2022)
みなとみらい21地区が脱炭素先行地域に選定。「公民連携で挑戦する大都市脱炭素化モデル」の構築を目指している。



国際貢献開始(1973)
水道技術支援でアフガニスタンへ初めて職員を海外派遣し、国際協力を開始。以降、横浜の都市のノウハウを生かし、現在まで各分野で幅広く展開。



公園愛護会が2,000団体超え(1999)
全国に先駆けて1961年に創設した市民参加型の公園管理制度。現在では、市内の公園の約9割に公園愛護会が結成されている。

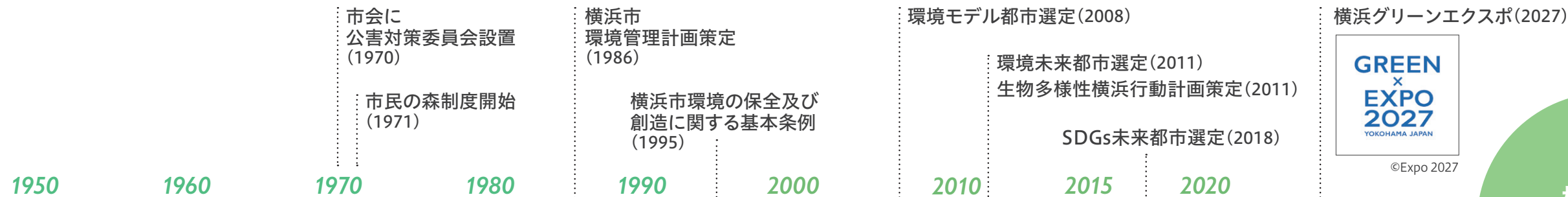


横浜みどりアップ計画策定(2009)
横浜みどり税を財源の一部に活用し、市民・事業者・行政が協働で緑を保全、創出。



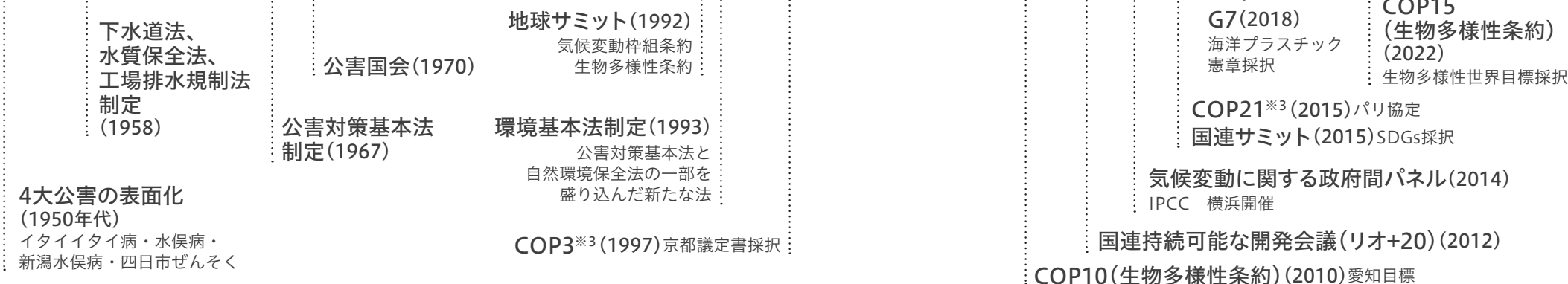
横浜近代下水道導入150年(2022)
1871年に近代下水道を導入。高度経済成長期には人口増加や開発で川や海の水質が悪化したものの、公共下水道の整備や市民・企業の努力により、市内の水環境は大きく改善。

横浜市



高度経済成長に伴う産業型公害^{※1}発生 都市生活型公害^{※2}が顕著化 地球環境問題へ

国・世界



横浜の
環境の未来

※1 産業活動を原因とする公害
※2 都市化(人口集中等)による日常生活や通常の事業活動に伴う公害
※3 国連気候変動枠組条約締約国会議